（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和３年４月９日

県立横浜立野高等学校長

令和２年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 26 日実施）	総合評価（４月８日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○生徒が主体的に学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。 ○学校行事や生徒会活動を工夫・充実させ、生徒の主体性、協調性の育成を図る。	①生徒に考えさせる授業を行い、生徒の主体的な学習意欲の向上を図る。 ②行事の企画・運営に生徒を参画させ、主体的に活躍できる環境を整備する。	①各教科で授業改善を推進し、研究授業を実施・共有する。 ②各行事の企画、運営にあたって、実行委員会を組織し、生徒中心の運営を一層進める。	①組織的な授業改善が推進され、生徒の学習意欲に向上が見られたか。 ②生徒が行事の企画運営に主体的に携わったという意識を持つことができたか。	①研究授業を実施し、互いの授業を参観することで、授業改善を推進させた。 ②学校再開直後に生徒会執行部、実行委員会の生徒が中心となって、「クラスの日」の準備に取り組み、開催した。「立野祭・球技大会・合唱コンクール」の行事は中止とした。	①ＩＣＴ機器を活用した授業をさらに取り入れ工夫することで、生徒の学習意欲の向上に努める。 ②コロナ禍では実施が困難な行事がある。この状況が続くことを想定し、新しい形態を模索していく必要がある。生徒会執行部の生徒にも考えさせたい。	①研究授業のまとめを作成・回覧して、成果を全体で共有するとよい。また、オンラインを使う学習方法も続けて研究していくとよい。 ①今後は中高で連携した授業研究等の実施を検討し、授業改善の一助となるとよい。	①各教科で授業参観を行い、生徒の学習意欲の向上を目指した組織的な授業改善に取り組んだ。 ①家庭学習が十分に定着していない。 ②実施できなかった行事も多くあったが、感染防止に取り組みながら、生徒が中心となって行事の企画運営を行った。	①「生徒に考えさせる授業」をテーマに授業改善を継続し、生徒の主体的な学習意欲の向上を図る。 ①　学習活動でのＩＣＴ機器の効果的な活用を、ＩＣＴ推進チームを中心に推進する。 ②コロナ禍の影響も考慮した行事の形態を検討するとともに、生徒が行事を主体的に企画運営する機会を増やす。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	○日常的な生徒指導を通して社会規範を身につけるとともに、部活動等において自己実現に向けて努力する姿勢を育てる。 ○個に応じた相談・支援体制の充実を図る。	①集団や社会の一員としてふさわしい振る舞いを身につけるよう指導の充実を図る。 ②生徒理解に努め、個に応じた適切な支援を行っていく。	①指導方針を全職員間で共有し、様々な機会を通して指導を徹底する。 ②担任による面談や必要に応じたケース会議の開催、スクールカウンセラーの有効活用を行う	①全職員で一貫した指導を行うことができたか。 ②ケース会議等の取組みが支援を必要とする生徒に生かせ、課題解決に至ったか。 ②教育相談窓口の一層の周知が図られたか。	①生徒指導についての共通理解を持つための会議を十分に確保できなかった。 ②支援が必要な生徒が増加傾向にあるが、ケース会議が十分に活用できていない。	①個々の生徒理解をしっかりと行い、その情報を教職員が共有し、様々なケースにきめ細かく対応する必要がある。 ②学年会を活性化させるとともに、各学年の教育相談担当者と連携し、多様なケースに対応する必要がある。	②様々な状況にある生徒に対して、今後はチームとしての支援の必要性が高まってきている。 ②コミュニケーションツールを利用することで、個別面談や個別指導が行いやすい面もあった。「つながる」感覚があると生徒の孤立感が減ると考えられる。	①社会規範意識の醸成やコロナ感染防止の取り組みでは、全職員で協力して指導することができた。 ②担任やスクールカウンセラーによる支援はできたが、チームとしての支援は十分ではなく課題があった。	①指導方針を全職員で共有し、組織的な指導を通して社会規範意識の更なる醸成を図る。 ②一人ひとりの生徒の状況をよく観察し、学年会やケース会議を通して関係教職員で情報を共有し、必要があれば外部専門機関とも連携し、個に応じた適切な支援に努める。
3	進路指導・支援	○生徒一人ひとりの進路希望を実現できるよう進路指導体制・教育相談体制・学習支援体制の充実を図る。	①生徒が自己理解を深め、自己探求を進め、自己実現をしていく力を身に付ける支援体制の充実を図る。	①進路ガイダンスを３年間の教育課程の中で効果的な時期に実施し、学年と協力して新入試のもとで希望進路実現に向けた支援を行う。 ①進路室や自習室を整備し、生徒の積極的な活用を促す。 ①総合的な探求（学習）の時間を有効に活用した、キャリア教育を実践する。	①適切な時期に効果的なガイダンスや説明会を実施できたか。 ①進路室の利用者が学年を問わず増えたか。 ①目標を設定しその実現に向けて取り組む生徒を育むことができたか。	①新入試に向け、動画配信やオンラインによる双方向のガイダンス等を工夫し、生徒及び保護者対象説明会を実施した。 ①衛生面に十分配慮して夏季休業中に自習室を開放し、延べ 200 名以上の生徒が利用した。また、進路室も積極的に開放した。 ①「自己理解・探求・実現」を促すキャリア探究活動を展開した。また、ＩＣＴを活用し課題等を配信した。	①自ら考え自己実現する力を促す学習活動をさらに推進する。 ①「総合的な探求の時間」の活動と評価の一体化の検討を続ける。 ①コロナ禍でのガイダンスの方法を検討する。ランチミーティング（職業人講話）の実施は見送ったが、今後も同窓会と連携して開催したい。 ①キャリアパスポートの有効活用を継続して検討する。	①生徒の主体性をどのように引き出すかが重要である。教職員のコーチング等のコミュニケーションスキルを向上させることも有効である。 ①コロナ後の社会では仕事の在り方が大きく変化することが予想される。進路指導でも社会の変化に関する情報提供や、授業の中でＳＤＧｓやＡＩ等について考える機会があるとよい。	①対面による生徒ガイダンスや保護者説明会に変えて、ＩＣＴ機器を利用したオンライン説明会を行い、計画通りに適切な時期に効果的に実施できた。 ①進路室や自習室の学習環境を整えたため、平日だけでなく休日も自習する生徒が増えてきた。 ①今後も、より高い目標に向かって自己実現に取り組む生徒を増やしていくための方策を検討する必要がある。	①面談やガイダンス、説明会におけるＩＣＴ機器の効果的な活用を、ＩＣＴ推進チームを中心に研究する。 ①学習環境の整備に努め、生徒の確かな学力の育成を支援する。 ①様々な学習データを有効に活用できるよう、進路指導体制の強化を図り、生徒の希望進路の実現を支援する。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（４月８日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 26 日実施）	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○地域貢献活動や地域との協働活動等を充実させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	①全校をあげて生徒が主体となった活動となるよう支援する。 ②地域貢献活動の充実を図っていく。	①間門小学校と連携したアイサツタイム、見守り活動を継続していく。 ②地域と関わる企画を設け、地域との関係を深めていく。	①生徒が活動を通じて自己肯定感を持つことができたか。 ②地域の一員であるとの意識を高めることができたか。	①間門小あいさつ運動と見守り活動の実施は見送った。防犯教育は実施した。 ②地域貢献デーの実施は見送った。本牧地区の行事も中止となった。	①②コロナの状況が落ち着いたら、次年度以降も継続していきたい。	①コロナ禍でも防犯教室を無事に実施し、交流が可能であることが分かった。次年度の取組みに期待したい。 ②中学校との連携も図れるとよい。	①１年間を通してコロナ禍の影響により、多くの行事が実施できなかった。今後もしばらくは対面での行事の実施が困難なことが予想される。	①このような状況でもできることはないか、どのようにしたらできるか、新しい形態も含めて検討する。
5	学校管理 学校運営	○安全・安心・快適な学習環境の整備に向けた取組みを一層推進するとともに、不祥事防止を通じて保護者や県民から信頼される学校づくりを確立する。 ○学校の教育活動に関する情報発信を積極的に行い、学校への理解が深まるよう努める。 ○生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①防災マニュアルの更新等、防災体制の充実を図る。 ①校内美化の徹底を続ける ①ＰＴＡ活動の充実のために、積極的な連携を図る。 ②学校ＨＰや学校説明会の充実を図る。 ③業務内容を検証し、より効率的に進行していく体制を作る。	①防災マニュアル・避難所初動対応マニュアルの内容を再確認し更新していく。 ①昨年度実施できなかったＤＩＧ研修会を実施する。 ①清掃方法や用具を工夫し、校内美化徹底に取り組む。 ①ＰＴＡ各委員会の担当者を中心に情報共有を行い、連携を図る。 ②生徒が主体となった説明会を実施し、本校の魅力を発信していく。 ③業務の更なるＩＣＴ機器の活用を推進し、働き方改革へ繋げていく。	①マニュアル内容の確認・更新ができたか。 ①ＤＩＧ研修会を実施できたか。 ①清掃活動徹底に取り組めたか。 ①ＰＴＡとの円滑な連携と情報共有ができたか。 ②説明会等の参加者が、充分に本校の魅力を感じることができたか。 ③業務の効率化が進み、年休取得日数の増加や時間外勤務の短縮が図られたか。	①防災マニュアルの内容を、コロナ対策の視点から更新した。 ①コロナ禍の影響で、今年度もＤＩＧ研修会を実施できなかった。 ①清掃活動に加え消毒作業を毎日実施し、校内の美化と衛生管理に取り組んだ。また、保護者ボランティアによる校内消毒を９月から 12 月まで週１回、合計 15 回実施した。 ①メールを利用して、ＰＴＡ役員と情報共有や業務の確認を行った。 ②学校説明会は密を避けて二部制とし、生徒主体で実施した。体験部活動は、９月の休日に企画した。広報活動は、ＳＮＳ等を活用し、オンラインで学校のＰＲ活動を行った。 ③コロナ禍の影響もあり、在宅勤務は導入されたが、時間外勤務の短縮は進んでいない。	①防災マニュアルの内容を、様々な状況を想定して具体的な対応を検討しながら更新する。 ①ペアワークや個での防災学習の方法を検討し、実施する。 ①校内美化及び衛生管理徹底の取り組みを今後も続けていく。 ①今後も新型コロナの感染状況を考慮しながら、ＰＴＡ活動の変更が必要であれば早めに検討する。 ②今年度はコロナ禍の影響で、体験部活動は９月以降に実施した。今後は８月の実施を検討する。また、情報発信の手段として、ＳＮＳの更なる活用を目指す。 ③テレワークや在宅勤務を推進するためには、教職員の自宅にパソコン等の環境整備が必要となる。	①学校での教育活動中におけるリスクマネジメントにも工夫が必要である。できることから取り組んでいくとよい。 ①学校と協力して、安全・安心な生活環境・学習環境の整備を支援できてよかった。	①丁寧な清掃活動により校内美化の徹底を図ることができた。また、コロナ感染症防止の取組みを、保護者の協力も得ながら実施することができた。 ①ＰＴＡ活動は対面での会議や行事が困難な状況で、メールを利用しながら、情報の共有や業務の確認等の連携を図ることができた。 ②コロナの感染状況を考慮しながら、学校説明会や体験部活動、ＳＮＳによる学校の魅力発信などＰＲ活動を実施することができた。 ③業務の効率化と時間外勤務の短縮をどのように進めるか、検討する必要がある。	①コロナの感染状況を考慮しながら、適切な時期にＤＩＧ研修会を計画するとともに、別形式での防災学習の在り方も検討する。 ②本校の教育活動に関する情報発信を効果的にできるよう、実施時期や方法等を工夫し、中学生やその保護者、地域の方に本校の理解が深まるよう努める。 ③昨年の 11 月から運用が始まった「勤務時間管理システム」も活用しながら、時間外勤務の把握とその短縮について検討する。また、ＩＣＴ機器を活用しながら業務の効率化を図る。